

## 安全データシート（SDS）

### 1. 製品及び会社情報

製品名： BASARA ステンコロリン緑  
（金属加工用切削油）  
会社名： R-GOT株式会社  
住所： 〒150-0021 東京都渋谷区恵比寿西2-1-3  
担当部門： 研究開発室 技術課  
電話番号： 03-5459-1121  
FAX 番号： 03-5459-1120

### 2. 危険有害性の要約

GHS 分類	区分
引火性液体	区分外
急性毒性（経口）	区分5
急性毒性（経皮）	区分外
皮膚腐食性および刺激性	区分外
眼に対する重篤な損傷性 または眼刺激性	区分外
吸引性呼吸器有害性	区分外
水生環境急性有害性（急性）	区分外
水生環境慢性有害性（長期間）	区分外

#### GHS ラベル要素

絵表示： なし  
注意喚起語： 警告  
危険性有害情報： 飲み込むと有害のおそれ  
注意書き

安全対策： 保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護マスク、保護衣などを着用すること。  
飲み込まないこと。

取り扱い後はよく手を洗うこと。

この製品を使用するとき、飲食又は喫煙をしないこと。

応急措置： 飲み込んだ場合：気分が悪い時又は呼吸に関する症状が出た場合は医師に連絡すること。

眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

眼の刺激が続く場合：医師の診断/手当てを受ける。

皮膚に付着した場合：多量の水と石鹸で洗うこと。

保管： 直射日光を避け、涼しく換気の良い場所に保管すること。

ゴミや水分などの混入防止のため使用後は必ず密栓しておくこと。

子供の手の届かない所に保管すること。

廃棄： 内容物/容器を国際/国/都道府県/市町村の規則に従って廃棄すること。  
具体的には、都道府県知事等の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

GHS 分類による上記注意書きに記載がない場合でも、以降の情報を参考に安全対策・応急措置・保管・廃棄に関し十分な配慮を行うこと。

3. 組成、成分情報

化学物質・混合物の区別：	混合物	
成分及び含有量：	植物油系合成油・植物油：	70～90%
	極圧添加剤（硫黄系）：	10～30%
化学特性(化学式)：	特定できない	
CAS ナンバー：	企業秘密なので記載できない	
官報公示整理番号：	企業秘密なので記載できない	
危険有害成分		
化学物質管理促進法(PRTR 法)：	非該当	
労働安全衛生法：	該当なし	
毒物劇物取締法：	非該当	

4. 応急措置

吸入した場合：	新鮮な空気の場所に移す。体を毛布などで覆い保温して安静を保ち直ちに医師の手当てを受ける。
皮膚に付着した場合：	水と石鹸で付着した部分をよく洗う。
眼に入った場合：	清浄な水で数分間注意深く洗う。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外す。その後も洗浄を続け、最低 15 分間目を洗浄した後、医師の手当てを受ける。
飲み込んだ場合：	無理に吐かせないで、速やかに医師の手当てを受ける。口の中が汚染されている場合は、水で十分に洗う。
応急措置をする者の保護；	現在のところ有用な情報なし。
医師に対する特別注意事項：	現在のところ有用な情報なし。

5. 火災時の措置

消火剤：	霧状の強化液、泡、粉末又は炭酸ガス消火剤が有効である。 初期の火災には、粉末、炭酸ガス消火剤を用いる。 大規模火災には、泡消火剤を用いて空気を遮断することが有効である。
使ってはならない	
消火剤：	棒状の水を用いてはならない。火災を拡大し危険な場合がある。
特有の危険有害性：	火災時には煙を吸い込まないように適切な保護具を着用すること。
特定の消火方法：	火元の燃焼源を断つ。周囲の設備等に散水して冷却する。 火災発生場所の周辺に関係者以外の立入りを禁止する。
消火を行う者の保護：	消火作業の際は、風上から行き必ず保護具を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、	
保護具及び緊急時措置：	作業の際には、必ず保護具を着用する。消火用器材を準備する。
環境に対する注意事項：	漏出液が河川、水路等公共水路に流れ込むのを防止する。
回収・中和並びに封じ込め	
及び浄化の方法・機材：	周辺の着火源を速やかに取り除く。 漏出液を密閉可能な容器にできる限り集める。残留液は土、砂、ウエス、不燃性吸収材等を用いて密閉可能な容器に回収し、その後を完全にウエス等で拭き取る。 回収するときは、火花の出ない器具を用いて回収する。
二次災害の防止策：	付近の着火源となるものを速やかに取り除く。 火気厳禁。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策：	周囲での高温物、スパーク、火気の使用を禁止する。 取扱いは換気の良い場所で行う。局所排気装置を設置する。 取扱い場所の近くにシャワー、手洗い、洗顔設備等を設けその位置を表示する。
--------	---

安全取扱い注意事項： 火気注意。  
 排気用の換気を行う。  
 飲み込みを避けること。  
 皮膚との接触を避けること。  
 ミスト、蒸気、スプレーの吸入を避けること。  
 取扱い後はよく手を洗うこと。

保管

適切な保管条件： 直射日光を避け、涼しく換気の良い場所に保管する。  
 熱、火花、裸火のような着火源から離して保管すること。  
 禁煙。  
 消防法危険物 第1類、第6類と混載してはならない。  
 酸化剤から離して保管する。  
 容器を密栓して保管すること。

安全な容器包装材料： 容器には圧力をかけない。圧力をかけると破裂することがある。  
 容器は、溶接、加熱、穴あけ又は切断しない。爆発を伴って残留物が  
 発火することがある。

8. 暴露防止及び保護措置

設備対策： ミストが発生する場合は発生源の密閉化、又は排気装置を設ける。  
 取扱い場所の近くにシャワー、手洗い、洗眼設備等を設けその位置を表示する。

管理濃度： 10ppm（硫黄系添加剤）

許容濃度： 日本産業衛生学会（2000年度版）：10ppm（硫黄系添加剤）  
 ACGIH（2001年度版）：10ppm（硫黄系添加剤）

保護具

呼吸器用保護具： 通常必要でないが、必要に応じて防毒マスク(有機ガス用)を着用する。  
 手の保護具： 長期間又は繰り返し接触する場合には耐油性のものを着用する。  
 目の保護具： 飛沫が飛ぶ場合には保護眼鏡を着用する。  
 皮膚及び身体の保護具： 長期間にわたり取扱う場合又は濡れる場合には耐油性の長袖作業着等を  
 着用する。

適切な衛生対策： 濡れた衣類は脱ぎ、完全に洗浄してから再使用する。

9. 物理的及び化学的性質

外観	緑色透明液体
臭い	僅かな臭気
pH	データなし
沸点（℃）	データなし
融点（℃）	データなし
凝固点（℃）	データなし
引火点	240℃（クリーブランド開放式）
爆発特性（％）	
爆発限界	下限 データなし 上限 データなし
蒸気密度	データなし
密度（g/cm <sup>3</sup> ）	0.935g/cm <sup>3</sup> (15℃)
溶解性	水に不溶
n-オクタノール/水分配係数	データなし
自然発火温度	データなし

分解温度	データなし
臭いの閾値	データなし
蒸発速度	データなし
燃焼性（固体・ガス）	データなし
揮発性	なし
動粘度	62mm <sup>2</sup> /s(40°C)

1 0. 安定性及び反応性

安定性：	通常の条件においては安定。
反応性：	水とアルカリまたは酸の存在により加水分解反応を起こし、脂肪酸とグリセリンに分解する。また酸素により部分的に過酸化物を生成する可能性がある。
避けるべき条件：	熱、火花、裸火などの着火源。
混触危険物質：	酸化剤。
危険有害な分解生成物：	燃焼の際には一酸化炭素等が発生する可能性がある。

1 1. 有害性情報

急性毒性：	経口	ラット LD <sub>50</sub> 4000mg/kg 以上(添加剤)
	経皮	ウサギ LD <sub>50</sub> 2000mg/kg 以上(合成油)
	吸入（蒸気）	データなし
	吸入（ミスト）	ラット LD <sub>50</sub> (4 h) 5.1mg/kg 以上(合成油)
皮膚腐蝕性・刺激性：		現在のところ有用な情報なし。
眼に対する重篤な損傷・刺激性：		現在のところ有用な情報なし。
呼吸器感作性：		現在のところ有用な情報なし。
皮膚感作性：		OECD406 での皮膚感作性試験において影響なし又はわずかに皮膚炎がみられる(ECHA Registered substances)の情報。(合成油)
生殖細胞変異原生：		現在のところ有用な情報なし。
発がん性：		現在のところ有用な情報なし。
生殖毒性：		現在のところ有用な情報なし。
特定標的臓器毒性(単回ばく露)：		現在のところ有用な情報なし。
特定標的臓器毒性(反復ばく露)：		現在のところ有用な情報なし。
吸引力呼吸器有害性：		40°Cにおける動粘性率が 53 mm <sup>2</sup> /s であるため、区分外にした。(合成油)

1 2. 環境影響情報

水生環境急性有害性：	魚類 LC <sub>50</sub> (96H) > 100mg/L、甲殻類 EC <sub>50</sub> (45H) > 1000mg/L、藻類 EC <sub>50</sub> (72H) > 100mg/L (ECHA Registered substances) から区分外。(合成油)
水生環境慢性有害性：	水生環境急性有害性が区分外であり、易生分解性および生体蓄積性が低いことから区分外。(合成油)
移動性：	一般的に水に対して浮く性質がある。
残留物・分解性：	易生分解性。(合成油)
生体蓄積性：	蓄積性は低い。(合成油)
オゾン層への有害性：	モンリオール定義書で列記されたオゾン層破壊物質の含有なし。

1 3. 廃棄上の注意

残余廃棄物：	<p>廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。</p> <p>事業者は産業廃棄物を自ら処理するか、又は都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。</p> <p>廃棄物の処理を委託する場合、処理業者等に危険性、有害性を充分告知の上処理を委託する。</p> <p>投棄禁止。</p>
--------	---

汚染容器及び包装： 容器は洗浄してリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。  
空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

#### 1 4. 輸送上の注意

##### 国際規制

国連分類： 国連の分類基準に該当せず。  
国連番号： 該当なし。  
追加の規制： 現在のところ有用な情報なし。

##### 国内規制

陸上輸送： 消防法 危険物 第4類 第4石油類 危険等級Ⅲ  
消防法、労働安全衛生法に定められている運送方法に従う。  
海上輸送： 船舶安全法 非危険物（個別運送およびバラ積み運送に於いて）  
船舶安全法に定められている運送方法に従う。  
航空輸送： 航空法 非危険物  
航空法に定められている運送方法に従う。

##### 輸送の特定の安全対策及び条件：

引火性があるので火気厳禁。  
容器が著しく摩擦または動揺を起こさないように運搬する。  
指定数量以上の危険物を車両で運搬する場合は、総務省令で定めるところにより、当該車両に標識を掲げる。また、この場合、当該危険物に該当する消火設備を備える。  
運搬時の積み重ね高さ 3m以下とする。第1類及び第6類の危険物及び高圧ガスと混載しない。  
その他関係法令に定めるところに従う。

#### 1 5. 適用法令

##### 国内法令

消防法： 危険物 第4類 第4石油類 危険等級Ⅲ（非水溶性）  
労働安全衛生法： 該当なし  
毒物劇物取締法： 該当しない  
海洋汚染防止法： 油分排出規制（原則禁止）  
化学物質管理促進法(PRTR法)： 非該当  
下水道法： 動植物油脂類排出規制（30mg/L）  
水質汚濁防止法： 油分排出規制（30mg/L 許容濃度）  
ノルマルヘキサン抽出分として検出される  
廃棄物の処理及び清掃に関する法律： 産業廃棄物規則（拡散、流出の禁止）

#### 1 6. その他情報（参考資料）

1. ECHA C&L Inventory Database
2. ECHA Registered substances Database
3. 日本産業衛生学会 産業衛生学会誌
4. 米国産業衛生専門家会議 TLVS and BEIs(ACGIH)
5. EC 理事会指令「67/548/EEC」の付属書 I 「危険な物質リスト」
6. 独立行政法人 製品評価技術基盤機構(NITE)「GHS 関連情報」
7. 職場の安全サイト「GHS 対応モデルラベル・モデルMSDS 情報」
8. 日本規格協会 JIS Z 7253:2012 「GHS に基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法—ラベル, 作業場内の表示及び安全データシート(SDS)」
9. 日本規格協会 JIS Z 7252:2014 「GHS に基づく化学物質等の分類方法」

安全データシート(SDS)は、危険有害な化学製品について、安全な取扱いを確保するための参考情報とし取扱事業者提供されるものです。取扱事業者は、これを参考として、自らの責任において、個々の取扱い等の実態に応じた適切な処置を講ずることが必要であることを理解した上で、活用されるようお願いいたします。

従って、本データシートそのものは安全の保証書ではありません。